

第10回新聞感想文コンクール

文部科学大臣賞 中学生の部



「守れる命、守りたい命、私達の手で」

常総市立石下西中3年 梅澤 花怜

近年、あまりの凄惨さに心が痛む、ショッキングなニュースが多い。虐待内容を知るだけで、私は手が震えて胸が苦しくなる。

私は毎朝、両親とのコミュニケーションも兼ねて、新聞を見ることにしている。政治・経済・スポーツや地元紙もある中、目に付くのが「虐待」の二文字だ。両親は、「可哀想すぎて、胸が痛んで仕方がないな。」と言葉を詰まらせ、母は涙ぐみ、顔を覆う。

児童虐待の相談と通告件数は、年間十五万件以上で、二〇二〇年までの虐待数は、五十一万件超である。この数はなぜ減らないのか。児童相談所自体が、虐待の認知を逃したり、対応に追われ、結果的に、守れる命も守れない現状なのだ。虐待では、特に母親が多いのだが、母親というものは、自分が苦しさや辛さを我慢して、やっと産んだ我が子なのに、なぜ虐待ができるのか、不思議で仕方がない。子供は、親に愛されたことで、愛してもらいたくて、ぎゅっと抱きしめて欲しい一杯だ。今回取り上げた記事で、五歳の女の子が虐待され、SOSを出したにも関わらず亡くなった事件。女の子が書き残したSOSのノート。「もうおねがい。ゆるして。ゆるして。だいたい。あしたはもっとできるといってくださるから……」

私は、胸が苦しく、涙が止まらなかった。親には親の気持ちがあり、思い通りに行かなくてもいい。でも、産まれたはずなのに、命を失ってしまった。命の無い弟を母はいつまでもぎゅっと抱きしめながら、「めんね、ちゃんと産んであげられなくてめんね。ごめんね……」と泣き崩れながら、何度も繰り返していた。母同様、家族全員が辛く悲しかった。私は少なからず、誰よりも命の尊さを理解している。皆、当たり前のように生きているが、それには本当は「奇跡」である事を、皆が気づいていないのだ。何一つ無駄な命はない。かけがえのない命。子供は、親に笑顔求めている。子供には不安な思いをさせてはいけない。私には、両親が揃っていて、妹がいる。毎日の楽しい思い出が、本当は一番有難く、幸せなのだ。

文部科学大臣賞 小学生の部



「エスカレーター、思いやりのり方は？」

桜川市立岩瀬小3年 中田 実里

みなさんは、エスカレーターにのるとき、どんなふうのりますか？わたしは、左がわにのり止まります。前に東京に行くと、みんな左がわにのり止まると、のり方教室の事が書いてありました。二れつで、立ち止まってるのが良いそうです。右がわは、スイスイ階段みたいなのに人がのぼっています。このり方を片がわ空け」と言っていました。

「片がわ空けも、急いでいる人に見直されていると知り、びっくりしました。見直しの理由は体の不自由な人にとつてあふなかったり、事が多いからだと思ったり。思いやりの気持ちでしていい事がある。思いやりのり方、みんなのり方もある。人にきくとき、思いやりって少しむずかしいと感じました。そして思いやりの思いやり、「スパー思いやり」がひつようだと考えました。片がわ空けの思いやりを、さらに自分より弱い人へとけることです。元気な人やよくある人が、手助けがひつような人のことを考えて行動すれば思いやりのり方が広がっていくと思います。

文部科学大臣賞 高校生の部



「遠い世界への案内人」

県立古河中等教育学校4年次 小森谷 蓮夏

「漁船転覆サンマ不漁の末に」第一面に書かれたその大きな文字は私の心を引きつけた。

九月十七日。悲しい事故が起きた。北海道根室市の納沙布岬沖でサンマ漁船が転覆。船員八人中一人死亡七人行方不明。胸が裂けるような思いでこの記事を読んだ。不慮の事故ではない、これは単なる不慮の事故ではない、防げる事故かもしれない、と考えるようになった。

事故の原因はサンマ不漁だった。そのための慶丸は遠洋に出なければならなかった。しかし、中型で横波の影響を受けやすい慶丸は遠洋に出るのに不向きだった。遠洋に不向きな船で陸を遠く離

な計画や政策をつくる。動物乱獲を防止するためにルールをつくる。そのための話し合いを行う。地球温暖化や乱獲という大きな問題に見る問題でも、自分たちができる解決策をはじめとして様々な解決策がある。自分一人がやっても無駄だとは思わず、小さなことでもコツコツと解決する努力を怠らないうえ、これからの問題は解決し、転覆事故も起こらなかつたのではないかと考えて持つようになった。

このように「遠い海で起きた事故」「遠い世界で起きている問題」というようにすべてが自分とは無関係だと思っていたことを、新聞が私に近づけてくれた。世界を近づけてくれる新聞をこれから読み続け、様々なことについて自分の考えを深めたいと改めて思った。まさに新聞は遠い世界の案内人だった。

記事読み、広がる視野

初の文科大臣賞に4人

あす、水戸で表彰式

茨城新聞社が主催する令和元年度「新聞感想文コンクール」の表彰式が15日、水戸市三の丸の県立図書館で開かれる。本年度は第10回の節目を記念し、文部科学大臣賞を創設、4人が選ばれた。新聞は家庭で読まれるだけでなく、教育現場で活用の輪が広がっている。児童生徒たちは記事を読むことで、視野が拡大。文字に表すことで、若い素直な気持ちが永遠に刻まれる。

コンクールは本年度、文部科学大臣賞を創設したほか、これまでの小学生3部門に加え、高校生の部を新設した。審査に当たっては、教育団体の協力を得て、1次・2次学校単位だけでなく、個人で審査を実施。小学1〜3年▽小学4〜6年▽中学生▽高校生1の4部門ごとに、個人を



第10回新聞感想文コンクールの最終審査会=2019年12月9日、水戸市内

対象とした文科大臣賞や茨城県知事賞、茨城県教育長賞、茨城新聞社長賞、茨城新聞奨励賞など九つの特別賞と優秀賞を選んだ。熱心な取り組みが認められた学校に贈る学校賞、学校奨励賞も選定した。文部科学大臣賞の受賞作品は、思いやりや命の大切さ、原発問題、新聞の重要性などを子どもたちの素直な視点で表現した。コンクールは、茨城新聞の創刊120周年を記念し、2010年度に始まった。茨城新聞を取り扱う新聞販売店をつくる茨城新聞茨城会(山本恒会長)とともに主催している。

文部科学大臣賞 小学4〜6年の部



「福島第一原子力発電について」

日立市立榎形小6年 渡辺 優華

東日本大震災から約八年が経とうとしています。原子力発電所の事故も今は風化し始め、ニュースでも取り上げられる事も減ってきているように感じます。

今回、デブリ除去の記事を読んだ。原子力の事故はまだ終息していないとあらためて感じました。なぜかと言つと、二

号機からデブリを取り出すのに約三十年近くかかるという予定だからです。デブリを取り出すためには、たかさんの専門家や技術者の人達の力が必要ですが、ニュースでも取り上げられる事もなく減ってきているように感じます。

私はこの記事を読んで、私に大人になつてもこの事故の終息はまだまだで、ずっと向き合っていくべき問題だと思えます。これから先の未来、原子力以外のエネルギーの開発や原子力の

はいる作業の道のりなど大変な事ばかりですが、原子力エネルギーを使って生活している私達は、原子力について良い点や悪い点を、もしもの場合の対処の仕方、東日本大震災での事故後の罪のなすり合い、自分にはよく分からないからどうでもいなどといった考え方をあらためて、もう一度この問題と向き合っていくべきなんだと思えます。よりよい暮らしを求めればそれなりのリスクがともなう事、何年か先の未来の事、私達は目の前のものにとらわれず、冷静に自分達の未来の事を考えるのが大切だと思います。

文部科学大臣賞 小学1〜3年の部



「エスカレーター、思いやりのり方は？」

桜川市立岩瀬小3年 中田 実里

みなさんは、エスカレーターにのるとき、どんなふうのりますか？わたしは、左がわにのり止まります。前に東京に行くと、みんな左がわにのり止まると、のり方教室の事が書いてありました。二れつで、立ち止まってるのが良いそうです。右がわは、スイスイ階段みたいなのに人がのぼっています。このり方を片がわ空け」と言っていました。

「片がわ空けも、急いでいる人に見直されていると知り、びっくりしました。見直しの理由は体の不自由な人にとつてあふなかったり、事が多いからだと思ったり。思いやりの気持ちでしていい事がある。思いやりのり方、みんなのり方もある。人にきくとき、思いやりって少しむずかしいと感じました。そして思いやりの思いやり、「スパー思いやり」がひつようだと考えました。片がわ空けの思いやりを、さらに自分より弱い人へとけることです。元気な人やよくある人が、手助けがひつような人のことを考えて行動すれば思いやりのり方が広がっていくと思います。

新聞を読んで、初めて知ったことがたくさんありました。東京では右がわ空け、大さかでは左がわ空けなのだそうです。同じ日本なのに、ふしぎでおもしろいなと思いました。

今年の東京オリンピック・パラリンピックまでに、片がわ空けをなくすのが目ひょうだと思っています。世界中からたくさんのお客さんが来ます。体が不自由な人や赤ちゃん、高れいもいると思います。だれもが安心してエスカレーターにのれるように、わたしも二れつで立ち止まってるのり方です。

電子書籍版ができました

茨城国体2019

報道写真集

茨城新聞社 288ページ・オールカラー 2,000円(税別)



いきいき茨城ゆめ国体2019

総力取材

総合開会式・閉会式、国体の全種目を一冊に。選手の活躍を全ページ迫力のオールカラーで！巻末には茨城県選手団全選手顔写真付き名鑑も。



お問い合わせは…茨城新聞社 営業局 e-mail syuppan@ibaraki-np.co.jp

※English Edition(英語版)と表示されている場合がございますが、日本語版で配信中です。 ※紙の書籍と同じ内容です。

第10回新聞感想文コンクール

素直な心、永遠に刻む

関城西小10年連続学校賞

古河中教頭は初

第10回新聞感想文コンクールの学校賞には、筑西市立関城西小学校(白石久美子校長)が選ばれた。第1回から10年連続受賞の快挙となった。表。

同賞は、新聞感想文コンクールに対し、学校全体で熱心に取り組む学校に贈られる。関城西小からは数多くの児童から作品が寄せられた。

同校では朝、児童が授業開始前に新聞を読み、関心を持った記事を発表し合うなど、教育現場で積極的に新聞を活用する先進校となっている。

学校賞には、同校のほか、県立古河中等教育学校(生駒忠夫校長)が初めて選ばれた。

第10回新聞感想文コンクールの学校賞には、筑西市立関城西小学校(白石久美子校長)が選ばれた。第1回から10年連続受賞の快挙となった。表。

回数	年度	校数	学校名
1	2010	3	関城西小、白方小、長戸小
2	2011	6	関城西小、土浦二小、長戸小、佐野小、村田小、麻生小
3	2012	19	関城西小、三笠小、五霞西小、吉田小、友部小、長戸小、常陸大田・太田小、土浦二小、吉生小、村田小、麻生小、石崎小、西小沢小、神栖・太田小、茨城大付属小、駒王中、緑岡中、土浦二中、茨城大付属中
4	2013	5	関城西小、土浦二中、茨城大付属中、緑岡中、谷田部東中
5	2014	5	関城西小、川島小、茨城大付属中、緑岡中、滑川中
6	2015	5	関城西小、川島小、神大実小、河間小、小栗小
7	2016	3	関城西小、川島小、神大実小
8	2017	1	関城西小
9	2018	1	関城西小
10	2019	2	関城西小、県立古河中等教育学校

受賞者・受賞校

- ◇文部科学大臣賞
中田美里(桜川市立岩瀬小3年) 渡辺優華(日上市立榊形小6年) 梅澤花怜(常総市立石下西中3年) 小森谷蓮夏(県立古河中等教育学校4年次)
- ◇茨城県知事賞
佐々木凛乃(筑西市立関城西小3年) 園部亜唯彩(茨城大付属小5年) 赤津郁海(牛久市立牛久一中3年) 宮田剛史(県立古河中等教育学校5年次)
- ◇茨城県教育長賞
小泉一真(守谷市立松ヶ丘小2年) 江幡崇(水戸市立新荘小6年) 本田結葉(県立古河中等教育学校3年次) 吉尾隆稀(水城高2年)
- ◇茨城新聞社長賞
鈴木善弥(桜川市立岩瀬小1年) 小松真彩(茨城大付属小4年) 須加野紅葉(鉾田市立旭中2年) 佐々木愛歌(古河三高1年)
- ◇茨城新聞茨城会長賞
園部柚玲彩(茨城大付属小3年) 須藤ひな(筑西市立川島小4年) 永塚梢(県立古河中等教育学校2年次) 奥果果(県立古河中等教育学校5年次)
- ◇茨城県教育研究会会長賞
安佐武蔵(桜川市立岩瀬小2年) 関恵汰(筑西市立川島小5年) 齊藤朱里(土浦市立都和中1年) 大澤崇流(県立古河中等教育学校5年次)
- ◇茨城県新聞教育研究会会長賞
松本律奈(筑西市立関城西小3年) 下山愛菜(日上市立榊形小6年) 岡田百花(つくば市立高崎中1年) 永塚楓(県立古河中等教育学校5年次)
- ◇茨城県PTA連絡協議会長賞
姫野芽生(阿見町立立木小1年) 鹿窪映彩(鹿嶋市立高松小6年) 荒原悠乃(県立古河中等教育学校1年次)
- ◇茨城県高等学校PTA連合会長賞
照永理凡(県立古河中等教育学校5年次)
- ◇優秀賞
須藤あかり(筑西市立川島小2年) 唐澤菜白(阿見町立あさひ小2年) 小川祐次郎(筑西市立川島小3年) 土谷万里(阿見町立あさひ小3年) 岡崎雄太(筑西市立関城西小3年) 成田柚絆(桜川市立岩瀬小4年) 岩田明香里(つくば市立島小5年) 小原夢乃(桜川市立岩瀬小5年) 宮田英知(茨城大付属小6年) 飯島愛珠(筑西市立川島小6年) 倉持愛真(県立古河中等教育学校1年次) 大沼星奈(鉾田市立旭中2年) 池田美悠(県立古河中等教育学校2年次) 宮野晴陽(県立古河中等教育学校3年次) 安藤桃花(阿見町立竹来中3年) 猪瀬也美(古河三高1年) 中村望愛(県立古河中等教育学校4年次) 関菜保(県立古河中等教育学校4年次) 野木音杜(県立古河中等教育学校4年次) 島崎桃萌(県立古河中等教育学校5年次)
- ◇学校賞
筑西市立関城西小、県立古河中等教育学校
- ◇学校奨励賞
筑西市立川島小、桜川市立岩瀬小、日上市立榊形小、下妻市立上妻小、鹿嶋市立高松小、阿見町立竹来中、つくば市立高崎中

(敬称略・順不同)

県知事賞 小学1~3年の部



筑西市立関城西小3年 佐々木 凛乃

「ごみ分別してる？」

ごみ分別してる?と聞かれて、私はちゃんと出ているのかな?と思うました。

読むまでは、私はもえる(ごみもえない)ごみに分ければそれでいいと思っていました。

でも、記事を読んでみると、ごみ分別して?と聞かれて、私はちゃんと出ているのかな?と疑問に思いました。

記事を見て、私はちゃんと出ているのかな?と疑問に思いました。

県知事賞 中学生の部



牛久市立牛久第一中3年 赤津 郁海

「若者の投票率が低いことについて」

先しん国には、プラスチックごみをしよる場所有に十分ありません。これからは、プラスチックごみをへらすために、使いすてにしないといった対策が必要で、日本では、来四月から、スーパーやコンビニで使われているレジ袋の有料にする方針が出ています。

でも、ここに来てとるが、おくられたらプラスチック(ごみ)の中に、ゆうがい物しつがふくまれていて、リサイクルができません。しんこなかんきようおせさんが起きていたら、ごみプラスチック(ごみ)をうけ入れたくない」と言っています。

県知事賞 小学4~6年の部



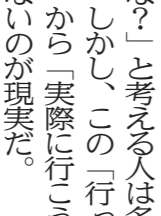
茨城大付属小5年 園部 亜唯彩

「二十一世紀の暮らしを変えたネット」

ごみ分別して?と聞かれて、私はちゃんと出ているのかな?と疑問に思いました。

記事を見て、私はちゃんと出ているのかな?と疑問に思いました。

県知事賞 高校生の部



県立古河中等教育学校5年次 宮田 剛史

「5Gに対して茨城県はどのようなアプローチをとるべきか。」

「ドコモも5G前倒し」
一面に大きく書かれたその文字は、ひとびつ目を見つけた。NTTドコモが、5Gの基地局の設置を令和二年の春に前倒ししたというのだ。5Gとは、現在の4Gの数倍のスピードで通信が可能になる通信規格のことだ。同じドコモが5Gにも言える。5Gの基地局設置が4Gと同様に進むのは、茨城県は立地的に良条件の通信環境を確保できる。これを活かして、5Gの活用事例を創出しよう。5Gの活用事例を創出しよう。5Gの活用事例を創出しよう。5Gの活用事例を創出しよう。

新聞から「生きる力」

県新聞教育研究会長 小岩 泰規

第10回新聞感想文コンクールは本年度、高校生が対象に加わり、最優秀賞として文部科学大臣賞が新設されました。応募総数は1667点。児童・生徒の皆さんと学校の先生方の関心の高さがうかがえました。

昨年、経済協力開発機構(OECD)が発表した学習到達度調査(PISA)の結果が反響を呼びました。79カ国・地域の15歳を対象に2018年に実施した調査で、読解力の育成が大きな課題となっていることを示しました。ここでいう読解力とは、文章を正確に読み取ることだけでなく、社会で生きる力や、異なる視点で論じられた文章を読み比べた上で考えを述べる力です。

こうした観点からも、新聞を読んで読解力や思考力、表現力を養



審査講評

して感想を述べている作品が目立ちました。また、虐待の記事から命の尊さや、被災地に心を配るなど、若者の感性に頼もしさを感じました。

高校生の部では、多面的・多角的な視点で問題を捉える作品が数多く見られました。第5世代(5G)移動通信システムや環境問題など幅広い社会的事象をわがこととして、考えを深めている姿が伝わってきました。

文部科学大臣賞をはじめ、入選した作品に共通していたのは、記事の内容や地域について十分把握していることはもちろん、自分の生活や生き方と比較したり、関連させたりしながら、考えを深めていることでした。

児童・生徒の皆さんには、今後も新聞を読むことで、社会とのつながりを感じながら、次代を力強く「生きる力」を身に付けてほしいと願っています。

(牛久市立牛久一中校長)

どの低遅延を実現する。超高速・超低遅延を利用した遠隔医療やテレビ会議によるリアルタイムコミュニケーションは、こうした地域での医療費の高いものに変えてくれるだろう。